重要自然マップ 2015

福島沿岸

凡例

※2015年段階の情報を元に作成しています。

- 津波浸水域(拡大図では白枠)
- 重点エリア拡大図範囲

■海 域

① 藻場
- 大型褐藻類藻場(2012-2013)
- モニタリングサイト1000（藻場）
- 生態系監視調査

② アマモ場
- アマモ場(2012-2013)
- モニタリングサイト1000（アマモ場）
- 生態系監視調査

③ 干潟
- 干潟(2014-2015)
- モニタリングサイト1000（干潟）
- 生態系監視調査
- 有識者による情報

■陸 域

④ 砂丘（砂浜）
- 砂丘（砂浜）
- 砂丘（砂丘植生）

⑤ 海岸断崖地の自然植生
- 海岸断崖地の自然植生

⑥ 残存樹林地
- 残存樹林地（自然林）
- 残存樹林地（二次林）
- 残存樹林地（植林等）

⑦ 樹林跡地(モザイク状の多様な撹乱環境)
- 樹林跡地(モザイク状の多様な撹乱環境)

⑧ 湿生草原
- 湿生草原（淡水性）
- 湿生草原（塩性）

⑨ 二次草原
- 二次草原

⑩ 非耕作農地（水田雑草群落）
- 非耕作農地（水田雑草群落）

⑪ 河川・湖沼等開放水域
- 河川・湖沼

■その他重要な自然を補足する情報

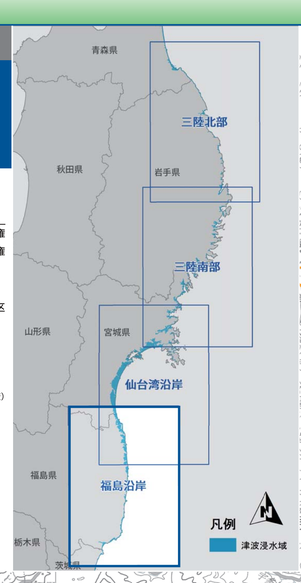
- レッドリスト掲載種の生育地（植物）
- レッドリスト掲載種の生息地（動物）

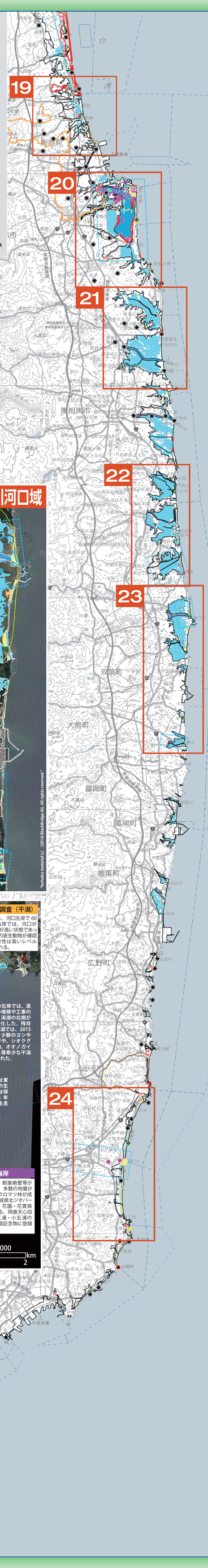
※それぞれの種名については非公開としています

- 特定植物群落（第5回基礎調査）
  ※津波浸水域周囲のみ
- 日本の白砂青松百選
- 日本の渚百選
- 日本の音風景百選
- 日本のかおり風景百選
- 日本の快水浴場百選
- 未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選
- ガン・カモ類（モニタリングサイト1000（ガン・カモ類）、ガン・カモ類の生息調査）
- シギ・チドリ類（モニタリングサイト1000（シギ・チドリ類））
- 海鳥（モニタリングサイト1000（海鳥）、生態系監視調査（海鳥））
- 社寺位置
- ジオサイト（三陸ジオパーク）
- みちのく潮風トレイル
- 重点地区調査ベルトトランセクト
- 重点地区調査地点
- 保全について議論されている区域
- 保全対策区域
- 保護区

■法規制

- 区画漁業権
- 共同漁業権
- 国立公園
- 国定公園
- 鳥獣保護区





19 新地

"Includes material (c) (2014) BlackBridge AG. All rights reserved."

2014年のガン・カモ類生息調査では、水神沼や磯浜漁港でオナガガモやスズガモが確認された。

磯の水神スダジイ林（特定植物群落）津波の被害はなかった。

磯の水神沼・沼沢植物群落（特定植物群落）ミズオオバコ等の希少な水草が生育する。

仙台湾沿岸の海岸林と仙台湾沿岸の砂浜植物群落（特定植物群落）は、共に津波により甚大な被害を受け、多くが倒伏、流出した。

仙台湾沿岸の砂浜植物群落（特定植物群落）は津波による砂浜の浸食により、面積が大きく減少した。震災後には、防潮堤工事の影響によって残存個体の一部が消失した。

磯浜漁港

福島県境海浜のクロマツ、ハイネズ群落（特定植物群落）は震災の影響を受け、著しく群落構成は変化していた。

非耕作農地でウミミドリの大群落が随所に分布する。ヒメハリイ、エゾウキヤガラ、イガガヤツリ等の湿生植物も多くの個体が確認された。自然遷移が進んでいる箇所もあり、震災後はアキノミチヤナギ、アズマツメクサ、ヒメコウガイゼキショウ等の希少種が生育していたが、現在は確認が困難となっている。

埒浜地区

埒浜防災緑地が県事業により計画されている。

埒浜防災緑地内の塩生湿地復元予定地

新地町の埒浜地区において、防災緑地内に福島県相双建設事務所による塩生湿地（0.8haX2か所）の復元や自然観察池（0.5ha）の創出が予定されている。復元予定地では、アキノミチヤナギやエゾウキヤガラ等の希少種が生育している。また、南側の釣師地区は新地町により防災緑地の整備が予定されている。

釣師地区

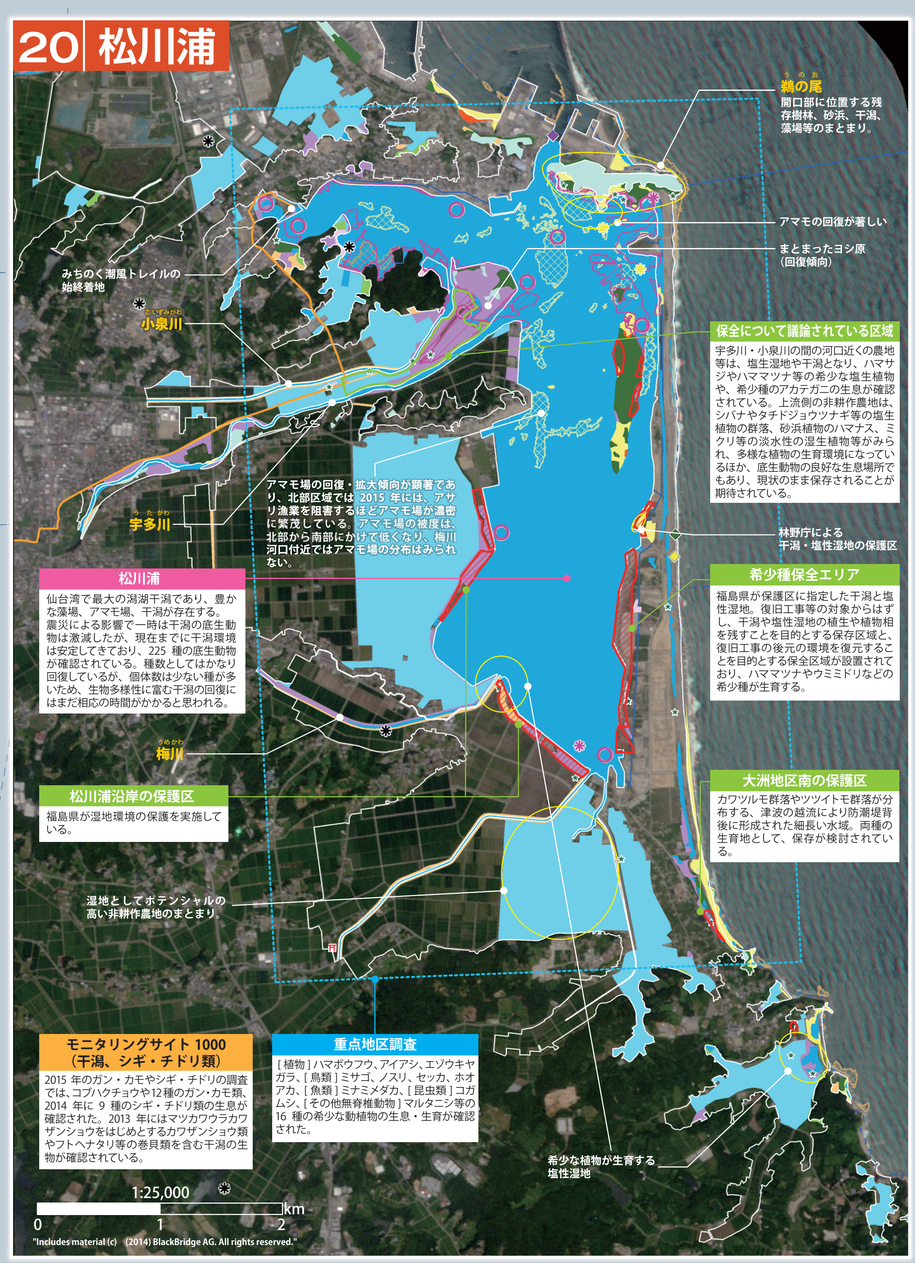
釣師防災緑地が町事業により計画されている。

大芦浜地区

大芦浜沿岸部の藻場から砂浜、砂丘植生、残存樹林等へと海域から陸域のつながりがある場所。陸域では、丘陵地の谷部に湿地や非耕作農地、残存樹林、開放水域等がまとまり、モザイク状の多様な環境がみられる。湿地では、カワツルモやウミミドリなど汽水性の水草や塩生植物が確認されている。

アラメ等が生育する藻場

20 松川浦



"Includes material (c) (2014) BlackBridge AG. All rights reserved."

鵜の尾

開口部に位置する残存樹林、砂浜、干潟、藻場等のまとまり。

アマモの回復が著しい

まとまったヨシ原（回復傾向）

みちのく潮風トレイルの始終着地

保全について議論されている区域

宇多川・小泉川の間の河口近くの農地等は、塩生湿地や干潟となり、ハマサジやハママツナ等の希少な塩生植物や、希少種のアカテガニの生息が確認されている。上流側の非耕作農地は、シバナやタチドジョウツナギ等の塩生植物の群落、砂浜植物のハマナス、ミクリ等の淡水性の湿生植物等がみられ、多様な植物の生育環境になっているほか、底生動物の良好な生息場所でもあり、現状のまま保存されることが期待されている。

アマモ場の回復・拡大傾向が顕著であり、北部区域では2015年には、アサリ漁業を阻害するほどアマモ場が濃密に繁茂している。アマモ場の被度は、北部から南部にかけて低くなり、梅川河口付近ではアマモ場の分布はみられない。

林野庁による干潟・塩性湿地の保護区

松川浦

仙台湾で最大の潟湖干潟であり、豊かな藻場、アマモ場、干潟が存在する。震災による影響で一時は干潟の底生動物は激減したが、現在までに干潟環境は安定してきており、225種の底生動物が確認されている。種数としてはかなり回復しているが、個体数は少ない種が多いため、生物多様性に富む干潟の回復にはまだ相応の時間がかかると思われる。

希少種保全エリア

福島県が保護区に指定した干潟と塩性湿地。復旧工事等の対象からはずし、干潟や塩性湿地の植生や植物相を残すことを目的とする保存区域と、復旧工事の後元の環境を復元することを目的とする保全区域が設置されており、ハママツナやウミミドリなどの希少種が生育する。

松川浦沿岸の保護区

福島県が湿地環境の保護を実施している。

大洲地区南の保護区

カワツルモ群落やツツイトモ群落が分布する、津波の越流により防潮堤背後に形成された細長い水域。両種の生育地として、保存が検討されている。

湿地としてポテンシャルの高い非耕作農地のまとまり。

希少な植物が生育する塩性湿地

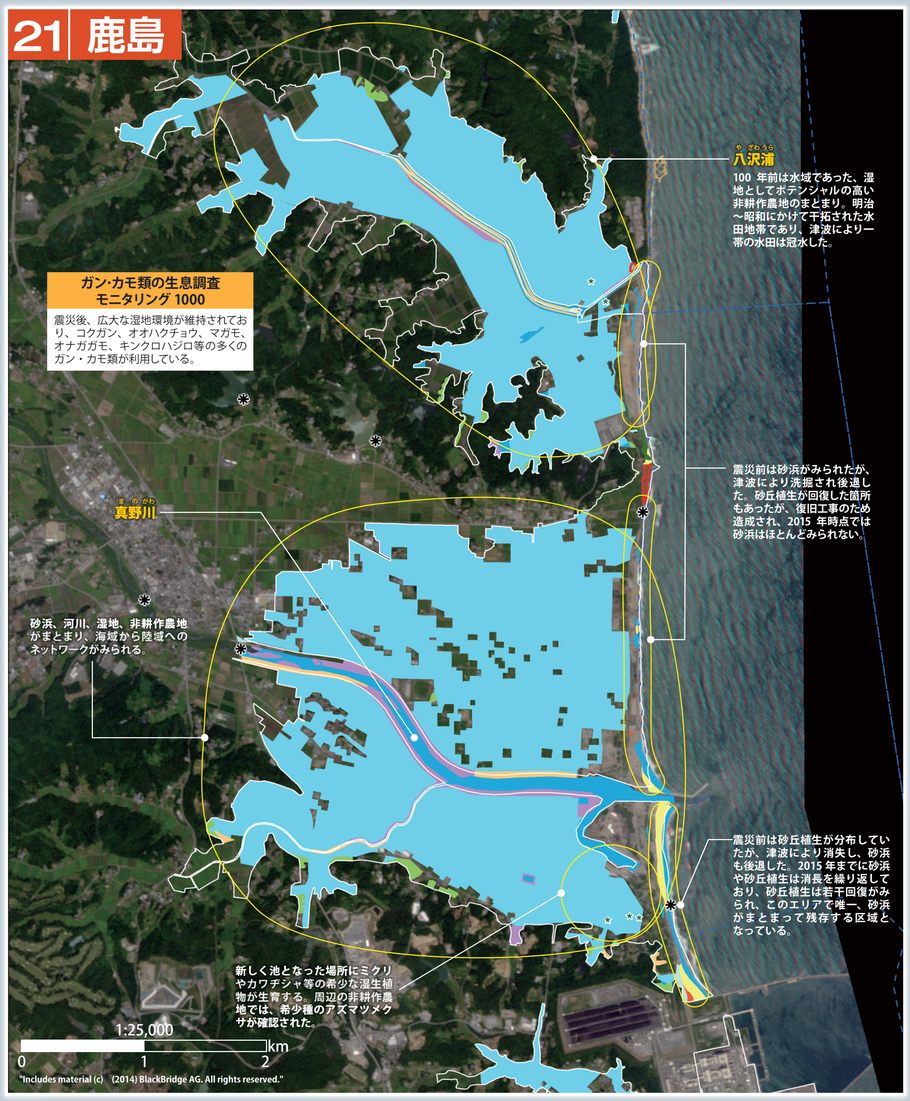
モニタリングサイト 1000（干潟、シギ・チドリ類）

2015年のガン・カモやシギ・チドリの調査では、コブハクチョウや12種のガン・カモ類、2014年に9種のシギ・チドリ類の生息が確認された。2013年にはマツカウラカワザンショウをはじめとするカワザンショウ類やアトヘナタリ等の巻貝類を含む干潟の生物が確認されている。

重点地区調査

［植物］ハマボウフウ、アイアシ、エゾウキヤガラ、［鳥類］ミサゴ、ノスリ、セッカ、ホオアカ、［魚類］ミナミメダカ、［昆虫類］コガムシ、［その他無脊椎動物］マルタニシ等の16種の希少な動植物の生息・生育が確認された。

21 鹿島



"Includes material (c) (2014) BlackBridge AG. All rights reserved."

八沢浦

100年前は水域であった、湿地としてポテンシャルの高い非耕作農地のまとまり。明治～昭和にかけて干拓された水田地帯であり、津波により一帯の水田は冠水した。

ガン・カモ類の生息調査 モニタリング 1000

震災後、広大な湿地環境が維持されており、コクガン、オオハクチョウ、マガモ、オナガガモ、キンクロハジロ等の多くのガン・カモ類が利用している。

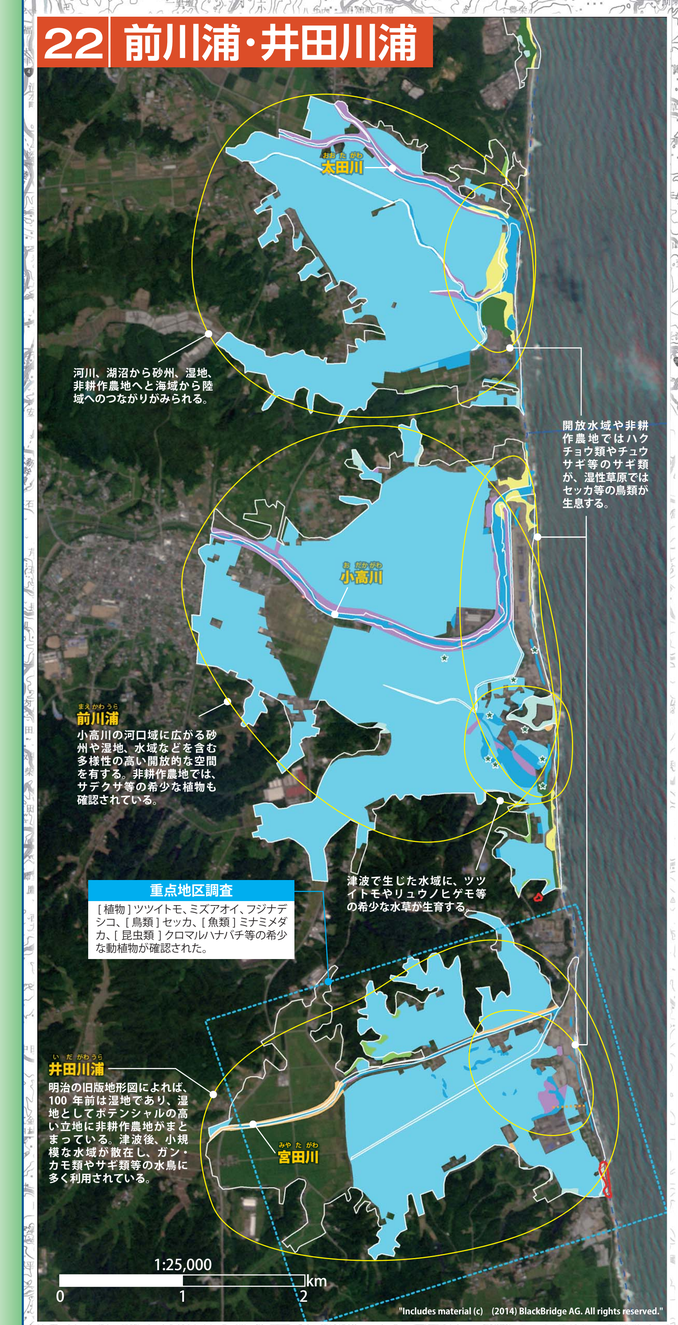
震災前は砂浜がみられたが、津波により洗掘され後退した。砂丘植生が回復した箇所もあったが、復旧工事のため造成され、2015年時点では砂浜はほとんどみられない。

砂浜、河川、湿地、非耕作農地がまとまり、海域から陸域へのネットワークがみられる。

震災前は砂丘植生が分布していたが、津波により消失し、砂浜も後退した。2015年までに砂浜や砂丘植生は消長を繰り返しており、砂丘植生は若干回復がみられ、このエリアで唯一、砂浜がまとまって残存する区域となっている。

新しく池となった場所にミクリやカワヂシャ等の希少な湿生植物が生育する。周辺の非耕作農地では、希少種のアズマツメクサが確認された。

22 前川浦・井田川浦



"Includes material (c) (2014) BlackBridge AG. All rights reserved."

河川、湖沼から砂州、湿地、非耕作農地へと海域から陸域へのつながりがみられる。

開放水域や非耕作農地ではハクチョウ類やチュウサギ等のサギ類が、湿性草原ではセッカ等の鳥類が生息する。

前川浦

小高川の河口域に広がる砂州や湿地、水域などを含む多様性の高い開放的な空間を有する。非耕作農地では、サデクサ等の希少な植物も確認されている。

重点地区調査

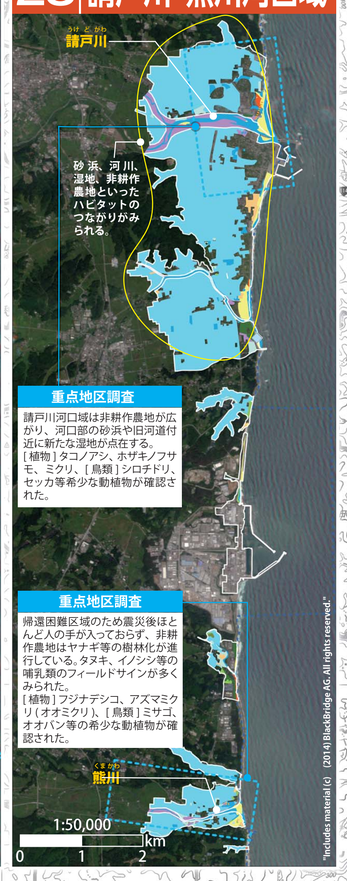
［植物］ツツイトモ、ミズアオイ、フジナデシコ、［鳥類］セッカ、［魚類］ミナミメダカ、［昆虫類］クロマルハナバチ等の希少な動植物が確認された。

津波で生じた水域に、ツツイトモやリュウノヒゲモ等の希少な水草が生育する。

井田川浦

明治の旧版地形図によれば、100年前は湿地であり、湿地としてポテンシャルの高い立地に非耕作農地がまとまっている。津波後、小規模な水域が散在し、ガン・カモ類やサギ類等の水鳥に多く利用されている。

23 請戸川・熊川河口域



"Includes material (c) (2014) BlackBridge AG. All rights reserved."

砂浜、河川、湿地、非耕作農地といったハビタットのつながりがみられる。

重点地区調査

請戸川河口域は非耕作農地が広がり、河口部の砂浜や旧河道付近に新たな湿地が点在する。［植物］タコノアシ、ホザキノフサモ、ミクリ、［鳥類］シロチドリ、セッカ等希少な動植物が確認された。

重点地区調査

帰還困難区域のため震災後ほとんど人の手が入っておらず、非耕作農地はヤナギ等の樹林化が進行している。タヌキ、イノシシ等の哺乳類のフィールドサインが多くみられた。［植物］フジナデシコ、アズマミクリ（オオミクリ）、［鳥類］ミサゴ、オオバン等の希少な動植物が確認された。

24 夏井川河口域

"Includes material (c) (2014) BlackBridge AG. All rights reserved."

重点地区調査

夏井川河口域は、長大な砂浜に、わずかであるが砂丘植生が残存している。残存したクロマツ混交林では希少な植物が生育し、後背の河川・湿地は水鳥が多くみられる。［植物］タコノアシ、ハマボウフウ、ミズアオイ［鳥類］オシドリ、オオタカ、ノスリ、ヒバリ、［その他無脊椎動物］マルタニシ等の希少な動植物が確認された。

四倉海水浴場

砂丘植生が残存し、ハマボウフウやハマゴウ等の多くの希少な砂丘植物が生育する。

仁井田川

横川

水辺ではオオハクチョウ等のガン・カモ類の利用がみられる。

夏井川

アユ・サケ等の遡上がみられる。

希少植物が生育する海岸林とガン・カモ類等が利用する水辺のつながりがみられる。

生態系監視調査（干潟）

2015年調査時には干潟は閉塞しており、沿岸部のコアジサシの繁殖地を避けて、河川域で調査した結果、クロベンケイガニ、アシハラガニ、モクズガニ等を確認した。

河口部は閉塞し、キョウジョシギやシロチドリ等の水鳥の利用がみられるほか、コアジサシの営巣地も確認されている。河岸では、ミズアオイやカワヂシャ等の希少な湿生植物が確認されている。

新舞子浜

砂浜では砂丘植生が残存し、ハマボウフウやハマゴウ等の砂丘植物が生育する。海岸林は、江戸時代に植林された防潮保安林で、海岸側の前縁部はクロマツの単一林、内陸側はクロマツとサクラ類等の広葉樹との混交林である。多様な樹種構成をもつ混交林では津波の影響が比較的少なかったため、希少な植物も樹林内に残存している。

滑津川

25 鮫川河口域・五浦

"Includes material (c) (2014) BlackBridge AG. All rights reserved."

生態系監視調査（干潟）

2015年調査では、河口左岸で60種以上、河口右岸では、河口が閉塞気味で水位が高い状態であったものの17種の底生動物が確認され、種の多様性は高いレベルにあると推察される。

ヤマトシジミやアリアケモドキ、カクベンケイガニ（東北地方では初記録）が生息する。

重点地区調査

鮫川河口域は、砂浜と潟湖を擁し、湿地や残存樹林、非耕作農地等のまとまりや、海から陸へのつながりがみられる。［植物］アイアシ、ハマボウフウ、［鳥類］オオバン、［その他無脊椎動物］オオモモノハナガイ、モモノハナガイ、サクラガイ等希少な動植物を確認した。

鮫川河口部の左岸では、高潮による砂の堆積や工事の影響により、潟湖の北側が陸化した。残存する南側の潟湖では、2015年の時点で、少数のヨシやアマモの生育や、シオクグ等の塩生植物、オオノガイやアカテガニ等希少な干潟の生物がみられた。

まとまった個体群としては東北地方で唯一のハマガニの生息地。水門改修工事の際は保全対策が実施され、2015年の時点でハマガニは再び生息していた。

特定植物群落の平潟海岸岸壁の植生と大津港五浦の海浜植生は特に津波による被害はみられなかった。

五浦海岸

大小の入り江や磯、断崖絶壁等がみられる海食崖で、多数の地層が見られ崖の上にはクロマツ林が成立する景勝地。茨城県北ジオパークのジオサイトで、花園・花貫県立自然公園に属する。岡倉天心旧宅・庭園及び大五浦・小五浦の一部として国の登録記念物に登録されている。

1:120,000
0 5 10 km

平成28年3月発行　環境省自然環境局生物多様性センター
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図20万を複製したものである。（承認番号　平27情複、第1348号）」

環境省 自然環境局 生物多様性センター Biodiversity Center of Japan